

## 「日本の伝統芸能を味わおう『能』—羽衣—」

## 挑戦問題 「能の魅力伝えよう」

本題材で育成する資質・能力

思考力・表現力

責任感・使命感

- 1 対象・日時 第3学年 A組 男子11名 女子11名  
平成28年6月30日（木）第5校時

## 2 題材で目指す学ぶ姿

「能」の知識や音楽的な感受を基に、その魅力を探究し、日本の伝統文化を尊重・継承しようとする姿

## ＜学ぶ姿を見取るための生徒と共有するルーブリック＞

資質・能力	評価基準
① 思考力・表現力	A 情報を整理・分析し導き出した自分の考えを工夫して表現できる。 B 情報を整理・分析し導き出した自分の考えを表現できる。 C 情報を整理し、表現することができる。
⑥ 責任感・使命感	A 日本の伝統文化の良さを受け継ぎ、よりよくしていこうとしている。 B 日本の伝統文化の良さを受け継ぎ、よりよくしていきたいと思っている。 C 日本の伝統文化の良さを理解している。

※ Aのうち、特に優れている場合はSとする。Cに満たないものはDとする。

## 3 題材について

## (1) 生徒観

本学年の生徒は、「日本の伝統芸能（音楽）」について、第2学年時の音楽では「歌舞伎」を学習し、国語と英語の授業では「狂言」を学習している。また、3学期には、文化庁主催事業「芸術家巡回公演」の指定を受け、著名な狂言師による「狂言」を目の当たりに鑑賞する貴重な体験もしている。さらに、第3学年になっての音楽の授業では、本題材の前に「雅楽」について学習を行っている。本題材の授業の事前アンケートでは、「日本伝統音楽（芸能）を知っておくべきだと思うか」という質問に対する肯定的回答率は100%であった。その理由として、「日本人として外国の人に日本の伝統文化を伝えられる人でありたい。」という記述もあった。

しかし、一方で「日本の伝統音楽（芸能）について興味があるか」という質問に対する肯定的回答率は58%、「第2学年で学習した歌舞伎について説明できる」という質問に対する肯定的回答率は61%に留まっており、使命感を発揮できるだけの日本の伝統芸能（音楽）の魅力の感受や、理解には課題があると考えられる。「雅楽」に続いてしっかりと「能」の特徴や魅力について探究し、味わわせ、「日本の伝統音楽（芸能）」の理解の深化を図りたい。

## (2) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領の第2学年及び第3学年の内容（2）B鑑賞の指導事項ア、イを受けて設定した。また、[共通事項]のうち、「B鑑賞」の指導を通してリズム、旋律、速度、音色を扱う。能は狂言とともに室町時代初期に成立したもので、両者は合わせて「能楽」と呼ばれている。「幽玄」という言葉で表される優雅で柔和、典麗な美的情趣に彩られた象徴劇である。歴史や古典文学を材料とし、歌と舞を中心に構成され、主役である役者が優れた造形美を有する能面をかけて演じる点に特色がある。簡素な舞台上で凝縮された様式性の高い演技を展開し、人間の運命を描く能は、その舞台に接する時、他の舞台芸術とは異なる不思議な感動を覚えることができる。今回取り扱う「羽衣」は、能の演目の中でも最も人気の高いもののひとつで、それぞれの場面での謡の表現に着目させるとともに、使用されている楽器（囃子）の効果など、物語を想像しながら音楽的要素と関連させて聴き、能の魅力を味わわせたい。

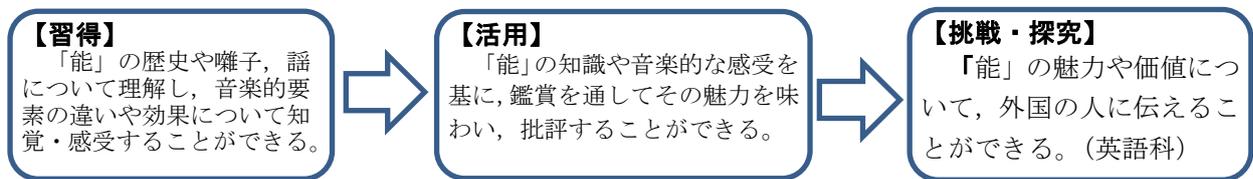
### (3) 指導観（授業改善のポイント）

第1時の導入では、既習事項である狂言に触れ、狂言と交互に演じられる能について話を進め、狂言と能の相違点（セリフと謡）を発見させる。展開部では、その相違点から「羽衣」の2つの場面を鑑賞し、特徴や音楽的な工夫について感じ取らせる。

狂言にはない能の特徴に気付かせたのち、能の基本的な知識の習得の場を設定し、授業時間の有効活用の工夫として、説明資料や写真等をパワーポイントや電子黒板付きプロジェクター等の教具を効果的に使い理解の深化を図る。さらに、授業の振り返りでは、「理解できたこと、分からなかったことは何か」や「もっと調べてみたいこと、他者の考えから気づいたこと」などを引き出させたい。

第2時では、第1時での能の基礎知識や囃子、謡についての知覚・感受を基にして、「羽衣」の大まかな流れについてポイントを絞って鑑賞し、能の魅力を味わわせ、その良さについて根拠をもって批評させるとともに、古くから今日まで受け継がれてきたその価値についても発見させたい。

#### ① 「主体的な学び」を育てる3つの学びがいを意識した指導計画



#### ② 挑戦問題の「能の魅力を伝えよう」について

本題材の挑戦問題である「能の魅力を伝えよう」は、授業の事前アンケートから、グローバル化、情報化する社会の中で、「外国の人に日本の伝統文化を伝えられる人でありたい。」という生徒の意識の高さに着目し、題材に対する意欲の高揚を図るために設定した。このことを足掛かりに、授業展開の工夫を通して、日本の伝統音楽の理解の深化と興味・関心の高揚を図りたい。さらに、横断的学習として、第2時で書いた批評文は、3学期に英語科での「ALTに日本の伝統文化を伝えよう」の授業で役立てることを通して学びかいを高めたい。

#### ③ 振り返り時間（5分）の充実

指導者は、授業末の「振り返り」によって、本時の授業内容が「どこまで理解できたか、分からなかったことは何か」や「もっと考えてみたいこと、調べてみたいこと」等を生徒から引き出すことが重要である。この「振り返りの質（この質を高めるには、授業展開の工夫が不可欠であり、「発問の質」によって、指導者は本時の授業内容の理解度の把握や自己評価を行えるとともに、課題を次時に生かすことができる。音楽科では、電子黒板付プロジェクターやパワーポイント、さらにWeb上の優れたコンテンツを有効活用することで、知識・理解の深化を図るとともにこの振り返りの時間（5分）の確保及び充実を図った。

#### ④ 自学自習への意欲を引き出す予習課題・復習課題の設定

本題材に対する学習意欲の高揚と主体的な学びの創造に向けて、第2学年次の国語科や英語科、芸術鑑賞会で学んだ「狂言」についてまとめておくという予習課題を設定した。また、第1時の終わりでは、楽器の特徴などについて調べてくることを予習課題とし、次時の学習意欲の高揚を図る。

第2時の終わりでは、「能」の歴史や基礎知識の習得を基に、既習題材との比較を含め、本題材についてのまとめを復習課題として設定した。

#### ⑤ ワークシートづくり

「能」の歴史や舞台の仕組み、謡や囃子について、ICTを有効活用して教授し、得た情報を自分で工夫してまとめられるようなワークシート、また、鑑賞の基になる「音楽的な感受」を見取るための音楽的な要素に着目したワークシートの工夫を図った。

## 4 題材の目標

能の特徴に関心を持ち、謡や囃子の音色、節回し、強弱、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、主体的に能を鑑賞する。

## 5 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
能の謡や囃子の音色，節回し，強弱，速度と曲想との関わり，能の特徴と物語や演出などとの関連に関心を持ち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	能の謡や囃子の音色，節回し，強弱，速度を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解するとともに，能の特徴と物語や演出などと関連付けて理解し，根拠をもって批評し，能の良さや美しさを味わって聴いている。

## 6 指導と評価の計画（全2時間）

時	学習内容	評 価			
		関	鑑	評価規準 (評価方法)	★資質・能力の評価 (評価方法)
1 (本時)	<p><b>課題の設定</b></p> <p><b>挑戦問題</b> 「能の魅力を伝えよう」</p> <p><b>情報の収集</b></p> <p>○能の謡，囃子，面について知り，所作や奏法の違いや音色などについて知覚・感受する。</p>	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>能の謡や囃子の音色，節回し，強弱，速度と曲想との関わり，能の特徴と物語や演出などとの関連に関心を持ち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。(ワークシート・観察)</li> <li>能の謡や囃子の音色，節回し，強弱，速度を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしている。(ワークシート・観察)</li> </ul>	★資質・能力の評価 (評価方法)
2	<p><b>整理・分析</b></p> <p>○予習課題を基に，能舞台の仕組みや囃子について整理し，能の歴史についても学習する。</p> <p>○前時で知覚・感受したことを整理し，「羽衣」を鑑賞する。</p> <p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>○これまでの学習を通して，能の特徴や魅力が何であるか，自分の言葉で表現し，批評文にまとめる。</p> <p>※3学期の英語の授業で活用できることを伝える。</p>	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>能の謡や囃子の音色，節回し，強弱，速度を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解するとともに，能の特徴と物語や演出などと関連付けて理解し，根拠をもって批評し，能のよさや美しさを味わって聴いている。(ワークシート・観察・批評文)</li> </ul>	<p>★①思考力・表現力(批評文・観察)</p> <p>★⑥使命感(事後アンケート)</p>

## 7 本時の学習（本時1時間目／全2時間）

### (1) 本時の目標

- 能の特徴と物語や演出などとの関連を理解する。
- 能の謡や囃子の音色，節回し，強弱，速度を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じる。

(2) 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆） 予想される生徒の反応（ <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> </span> ）	評価規準 教科の指導事項（○） 資質・能力（★） （評価方法）
1 予習課題を発表する。「狂言」について（3分）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時までの「予習課題」として、2年時の国語科・英語科で習ったり、芸術鑑賞会で視聴したりした「狂言」についてまとめさせておく。</li> <li>【発問】「狂言はどんなところに魅力がありましたか。」</li> <li><span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">・セリフ劇（言葉） ・動作がおもしろい。 ・舞台セットがないので想像してみた。</span></li> </ul>	
2 挑戦問題を提示する。（2分）	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「能の魅力伝えよう」</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この挑戦問題を解決することで、どんな資質・能力が育つか意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★責任感・使命感</li> <li>★思考力・表現力</li> </ul>
3 本時のめあてを確認する。（1分）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2時の批評文を英語訳し、ALT等外国の方に、日本の伝統文化の素晴らしさについて伝える。（英語科との連携、横断的学習）</li> <li>【発問】「能の魅力伝えるには、どんなことが分かればよいと思いますか。」</li> <li><span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">・能の歴史 ・能についての情報・特徴</span></li> </ul>	
4 狂言「附子」と能「羽衣」の一節を聴き比較する。（2分）	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">狂言と違う能の特徴について知ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・狂言と能を比較し、狂言が「セリフ」であるのに対し、能が「謡」であることに着目させる。</li> <li><span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">・狂言はセリフであるが、能はゆっくりで、独特な言い回しがある。 ・能は、落ち着いた感じで話をしている。</span></li> </ul>	
5 「羽衣」のあらすじを理解し、場面1の映像を見て特徴を感じ取る。（15分）	<ul style="list-style-type: none"> <li>【場面1】登場するシテ・ワキの謡の違いを見つけさせる。</li> <li>【発問】「天人と白竜の違いを感じ取ろう。」</li> <li>◆ワークシートへ、謡のセリフを表示しておき、謡の変化を見つけやすいように工夫する。</li> <li>・再度映像をみながらポイントを確認していく。（シテとワキの掛け合いの一部分）</li> <li><span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">・シテとワキの謡い方では速度や音の高さが違う。 ・独特な声の揺らし方をしている。 ・シテは、面を付けて演じている。</span></li> </ul>	○能の謡や囃子の音色、節回し、強弱、速度と曲想との関わり、能の特徴と物語や演出などとの関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。（ワークシート・観察）
6 場面2の映像を見て特徴を感じ取る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒からでた意見をもとに、面やシテ・ワキについて説明する。</li> <li>【場面2】舞踊の場面で、楽器と地謡、掛け声に気付かせ、</li> </ul>	○能の謡や囃子の音色、節回し、強弱、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。（ワークシート・観察）

<p>る。(15分)</p>	<p>どのような効果があるかを感じ取らせる。</p> <p>【発問】「場面1と何が違うか発見し、それはどのように表現しているかを感じ取ろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・謡の違いや囃子・地謡の効果について感じ取らせるために、再度映像を視聴する。</li> </ul>	
<p>7 「能」の囃子，謡について知る。(7分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器に合わせて、謡を歌っている。</li> <li>・楽器をたたく人には掛け声があり、それぞれ違った掛け声である。(ヤ・ハ・イヤ・ヨー)</li> <li>・シテの動きや歩き方がワキと違う。(舞についてなど)</li> <li>・謡は多くの人で歌っていた。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートへ、必要な情報を自分なりにまとめ記入する。</li> <li>◆ワークシートへイラストを入れておき、メモを取りやすくする。</li> <li>◆メモを取りやすいように、ポイントとなる情報には色を変えてボードへ提示する。</li> </ul>	
<p>8 振り返り まとめ(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シテ，ワキ，地謡では謡い方がそれぞれ違っていた。</li> <li>・楽器や地謡が，シテの舞を盛り上げていた。</li> <li>・能で使われる面は，シテのみが使用し面にも工夫されていることが分かった。</li> </ul>	
<p>9 次時について</p>	<p>【まとめ】</p> <p>能は狂言とは違い、独特な謡いで物語が進行しており、楽器や地謡などで、シテの演技を盛り上げていることも気付くことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(予習課題)</li> </ul> <p>囃子で使われる楽器のことや、広島県で能を見ようと思ったら、どんな所で見るができるのかを調べてくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の能の音楽的な感受を基に、次時では、歴史・能舞台・囃子等についてより詳しく学習した上で、「羽衣」をポイントをしぼって鑑賞し、批評文を書く。</li> </ul>	

※  は、「資質・能力」を生徒と共有する場面